

岩陰Aの空間利用について

また、出土遺物の分布と焼土面の位置関係から岩陰Aにおける空間利用のありかたが推測できる。石器および石製品の出土分布をみると、おおよそではあるが、石皿と剥片の出土位置から岩陰の最も奥まった部分で石器の製作・加工が行われていたことが十分考えられる。また、岩陰の入り口にあたる部分は焼土面の痕跡から火処として決められていたであろう。さらに、その焼土面の岩陰側の周囲に土器片が分布することから煮炊きが行われていたであろう事は当然推測可能である。さらに、石器の製作・加工を行う空間と火処で煮炊きを行う空間の間に遺物出土の空白部分がみられることから、この位置に人が居場所として位置していたのであろうと考えられるのではないだろうか。

また、岩陰Aにおいて確認された2ヶ所の焼上面の痕跡は明確な掘り込みをもっていなかったことから恒常的に火を使用していたとはいいきれず、一時的な使用痕であったと推測される。つまり、剥片やチップの出土と一時的な火の使用ということをあわせて考えると、当該岩陰は、とくに岩陰Aにおいて石器を製作・加工・再加工するための場所もしくはキャンプ・サイトのなものであったと思われる。

以上は、あくまでも出土遺物の分布と焼土面の位置関係からのみ推論したため、欠落は十分に考えられ傍証であることは免れない。しかし、岩陰遺跡に関する調査例が少ない本県の事情もあり、まして当該期の遺跡は徳島県内にあつては資料の蓄積も浅くまだまだ不明な点が多い。今回の岩陰遺跡の発掘調査成果がその第一歩になれば幸いだが、今後の検討に期待したい。

註

- 1) 立花博『徳島県那賀郡上那賀町古屋岩陰遺跡調査概報』1970
- 2) 同志社大学文学部考古学研究室『徳島県三好郡三加茂町所在 加茂谷川岩陰遺跡群』同志社大学文学部文化学科 1999
- 3) 湯浅利彦氏のご教示による。記して感謝致します。
- 4) 同様な土器片が高知県奥谷南遺跡の包含層中においても出土している。
松村信博『四国横断自動車道(南国-伊野間)建設に伴う発掘調査報告書 奥谷南遺跡Ⅲ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 2001

第1表 山田遺跡(1)発掘調査 出土遺物観察表 土器

番号	遺構名・出土地点	器種	残存率	口径(cm)	底径(cm)	頸部径(cm)	器高(cm)	技法・文様	色調	胎土	掘入品
1	C-3 岩陰A	縄文深鉢	-	-	-	-	(6.9)	外)口縁部にキズミ、3条で一帯位を構成する沈線による重弧文が施され、その下部に沈線単位は重弧文と同様の点線文を施している	外)に深い黄褐色)黒褐色	石、雲	
2	C-2 岩陰A 3層直上	土師器深鉢	-	-	-	-	-	外)爪形文、穿孔 ケ所 内)腰部:ヨコ方向の板ナデ、穿孔ケ所	内・外) に深い黄褐色	石、長、雲、砂	

第2表 山田遺跡(1)発掘調査 出土遺物観察表 石器

番号	遺構名・出土地点	器種	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
3	C-2 岩陰A	石鏃	サヌカ石	3.7	2.4	0.45	2.66	2層上部
4	C-2 岩陰A	石鏃	サヌカ石	3.1	1.5	0.6	2.94	3層上面
5	C-2 岩陰A	石鏃	サヌカ石	2.5	1.35	-	1.2	本製品
6	C-2 岩陰A	楔形	サヌカ石	3.15	2.8	0.65	2.76	両面打法により両片割製、両片の左側縁を切断して器形を整える。下縁(右表面)に加工痕
7	C-2 岩陰A	割片	サヌカ石	2.55	2.95	0.6	3.32	両面打法により割片作。幅広の割片の下縁に微細な割製痕(使用痕)がみられる。
8	C-3 岩陰A	割片	サヌカ石	4.05	5.0	0.6	10.04	幅広の割片を使用。下縁に微細な割製痕(使用痕)がみられる。
9	C-3 岩陰A	割片	サヌカ石	7.8	9.25	1.75	112.2	標準の割片を使用。左・右側縁に自然面残存。両面打法により割片割製。右側縁を切断し器形を整える。下縁に微細な割製痕(使用痕)がみられる。
10	岩陰A	麻石	結晶片岩(玄武岩?)	6.6	4.7	3.0	160	片巻の横円鏃(河原自然産)を使用。上・下縁に使用痕加著
11	岩陰A	蔽石・磨石	片岩	9.5	8.6	4.25	566.2	片巻の半円鏃を用いる。表面向きに縦線に磨打痕。下縁に表面がみられ、磨石としての使用がみられる。
12	C-2 岩陰A	蔽石・磨石	結晶片岩	10.2	11.6	5.0	707.3	
13	C-2 岩陰A	蔽石	結晶片岩	11.55	10.2	3.55	730	片巻の扁平半円鏃を用いる。縦線に磨打痕。特に上・下縁に磨打痕が加著
14	岩陰A	蔽石	結晶片岩	7.8	4.9	1.3	68.1	扁平半円鏃(河原石)を使用。縦線に磨打痕
15	C-2 岩陰A	蔽石	結晶片岩	11.9	8.6	3.9	618.7	片巻の扁平半円鏃(自然産)を用いる。両縁に磨打痕
16	C-2 岩陰A	蔽石	結晶片岩	9.1	4.4	2.7	168.5	片巻の円柱鏃(河原自然産)を使用。下縁に磨打痕加著。上面は使用による欠損と推定される。
17	C-3 岩陰A	蔽石	結晶片岩	16.7	7.3	3.7	510	片巻の長楕円鏃を用いる。上下左右縁に磨打痕。下縁部は使用による欠損
18	C-2 岩陰A	蔽石	緑レイ片岩	12.9	11.2	2.9	890	扁平半円鏃を用いている。表面に磨打痕がみられる。
19	岩陰A	石皿	結晶片岩	38.8	23.0	7.7	10.72	結晶片岩-板石(自然産)を用いる。表面にすり痕(使用痕)がみられる。



調査前風景 (南東から)



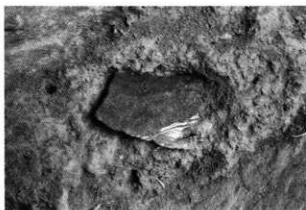
調査区遠景



岩陰A焼土痕検出



岩陰A (縄文土器) 出土状況



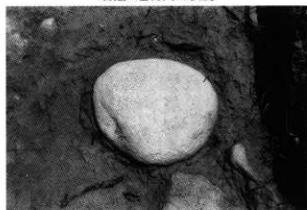
岩陰A (サヌカイト) 出土状況



岩陰A遺物出土状況



岩陰A (縄文土器) 出土状況



岩陰A遺物出土状況



岩陰A遺物出土状況



岩陰A (サヌカイト) 出土状況



岩陰A遺物出土状況



岩陰A (敲石) 出土状況



岩陰A (石) 出土状況



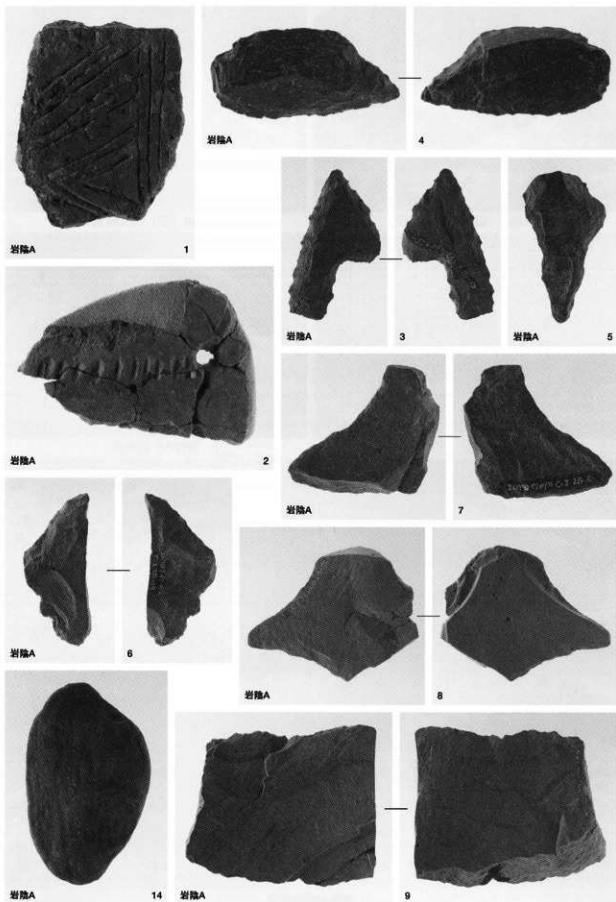
岩陰A (台石) 出土状況



岩陰A土層断面



岩陰A完掘状況





岩陰A

11



岩陰A

15



岩陰A

12



岩陰A



16



岩陰A

10



岩陰A

13



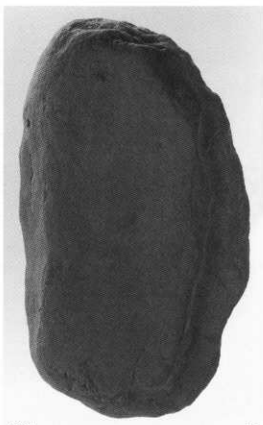
岩陰A

17



岩陰A

18



岩陰A

19



IX 馬路遺跡

1. 本章は、三好郡池田町に所在する馬路遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査期間及び報告書作成期間は、第1章の本文及び第2・3表にまとめてあるので、参照されたい。
3. 本章の遺物番号は、通し番号とし、本文・挿図・図版・表と一致する。
4. 本遺跡周辺の地理的、歴史的環境については、本書の第1章および、『四国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査報告18 大柿遺跡Ⅰ』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第37集の第Ⅱ章を参照されたい。

1 調査の経過

(1) 調査の経過

馬路遺跡は、事前の分布調査時において土師質土器や瓦質土器を採取しており、中世の遺跡の存在の可能性が指摘されていた。発掘調査にあたっては7,740m²を対象面積として試掘調査320m²を行った。

試掘調査は平成10年2月2日～3月31日にかけて重機によるトレンチ掘りで行った。西側の丘陵頂部分については、中世墓と思われる石積6基が検出されたため、調査対象とした。東側の平坦部分については、中世以前の遺構は検出されなかったため、試掘のみで終了し本調査面積を650m²と確定した。

本調査は平成10年4月2日に開始し、平成10年6月30日に終了した。



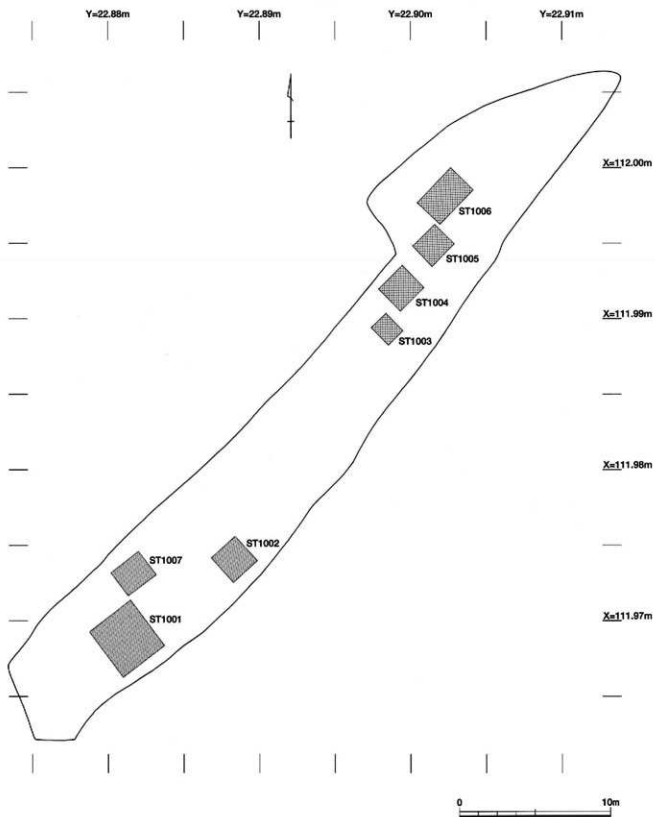
第1図 調査地点位置図 (S=1/2.5万)

(2) 発掘調査の方法

調査を始めるに当たりグリッドの配置は、発掘調査統一基準にならい、第IV系国土座標を基準とし、5mメッシュを1グリッドとして調査対象地を包み込む形で設定した。西南隅を基準とし、北にA、B、C・・・、東に1、2、3・・・の順に記号・番号を振り、その組み合わせで各グリッドを表すこととした。遺構記号・番号は検出時に決定し、掘削後遺構の確実性が乏しいと判断されたものについては欠番とした。

(3) 調査日誌抄

1998 (平成10) 年	4月27日	精査、STをリフトセンターで撮影、 (STの検出写真)	
4月2日	現況確認、挨拶回り		
4月7日	人力掘削	4月28日	精査、セスナで1/100図化のため撮影
4月16日	人力掘削、1/20平面図	4月30日	人力掘削
4月21日	力掘削、ST1001・1004平面図	5月1日	人力掘削



第2図 馬路遺跡遺構配置図 (S=1/250)

5月6日	ST1001・1004・1006・1007平面図	5月28日	人力掘削、ST1001、ST1002、 被覆円礫除去、ST1001平面図、 ST1002断面図、ST1003立面図
5月21日	人力掘削、ST1001被覆円礫除去1/4、 ST1002・1003・1005平面図ST1001・ 1006断面図	6月15日	調査区全体を精査、図面ST1003・ 1006・1007レベル入れ
5月22日	人力掘削、ST1002、1003・1005平面図、 ST1001断面図	6月16日	調査区全体を精査、完備状況写真
5月25日	雨の為現場作業中止、写真整理	6月25日	午前中のみ現場作業、ST1002精査、 遺構検出、ST1003～1006ダメ押し、 タチ割トレンチ
5月26日	人力掘削、ST1001断面図、 ST1002・1003・1005立面図	6月26日	ST1002・1007ダメ押し、確認 トレンチ写真
5月27日	人力掘削、ST1001被覆円礫除去、 ST1001平面図、ST1002断面図、 ST1003・1005立面図	6月29日	ST1001ダメ押し、タチ割 トレンチ掘、写真

2 調査成果

(1) 基本層序

調査区においては、地表面からは10cmほどは腐葉土で、その層の下は黄褐色砂質土の地山層となっている。

(2) 遺構と遺物

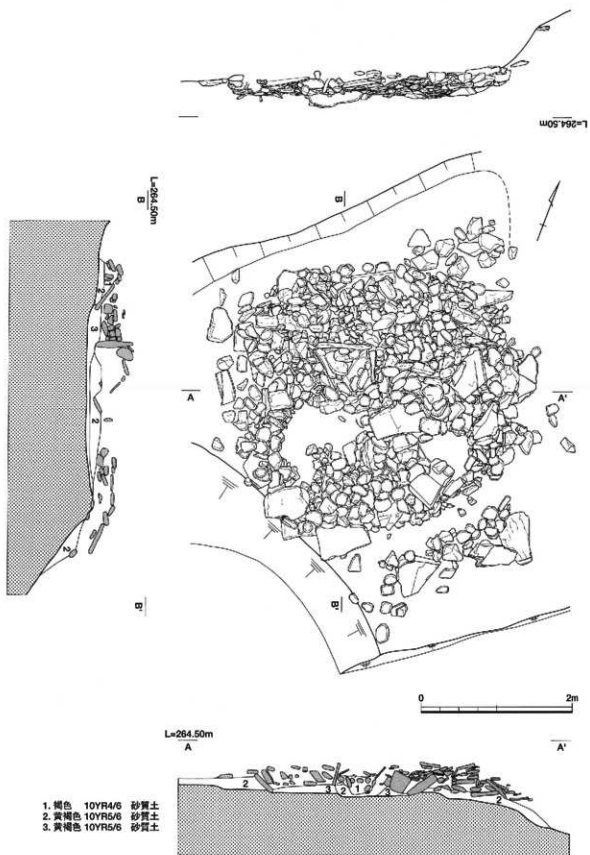
今回の調査では遺構として捉えられたのは、丘陵頂部分付近で検出された中世から近世にかけての集積墓7基である。

1号古墓 (ST1001) (第3・4・5図)

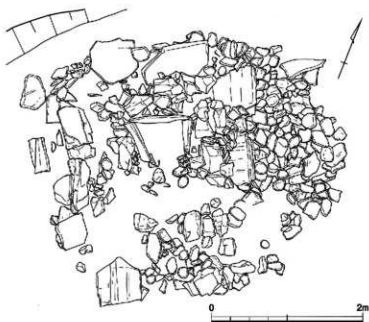
北東端部で検出された。規模は長軸4.20m、短軸3.90mを測り、方形を呈している。築造手順は、以下の①～④である。①地山を整地し、平坦面を作る。②50～70cm程度の結晶片岩板石を、方形に内側と外側に分けて二重に並べる。③10～20cm程度の砂岩円礫を、内側の結晶片岩石組と外側の結晶片岩石組の間に敷き詰める。④全体を20～30cm程度の結晶片岩で覆う。出土遺物は鉄釘や刀片と思われる鉄片などで、築造時期を特定できるような遺物は見つかっていない。

2号古墓 (ST1002) (第6図)

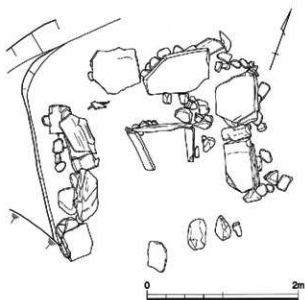
北東部、ST1001の南側で検出された。規模は1号墓 (ST1001) より小さく、長軸2.10m、短軸2.05mではほぼ正方形である。6号墓 (ST1006) と同様の構築方法である。覆土中より出土遺物はなかった。



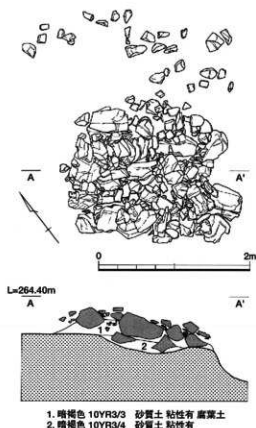
第3図 ST1001平・断面遺物出土状況図 (S=1/50)



第4図 ST1001被覆円礫除去後平面図 (S=1/50)



第5図 ST1001石棺状石組検出状況平面図 (S=1/50)



第6図 ST1002平・断面遺物出土状況図 (S=1/50)

3号古墓 (ST1003) (第7図)

北東部、ST1002の南側で検出された。規模は長軸1.60m、短軸1.3mを測る。6号墓 (ST1006) と同様の構築方法である。覆土中より出土遺物はなかった。

4号古墓 (ST1004) (第8図)

北東部、ST1003の南側で検出された。規模は1号墓 (ST1001) より小さく、長軸2.2m、短軸2.0mを測る。6号墓 (ST1006) と同様の構築方法である。覆土中より出土遺物はなかった。

5号古墓 (ST1005) (第9図)

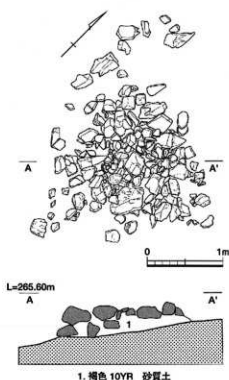
北東部、ST1004の南側で検出された。規模は1号墓 (ST1001) より小さく、長軸2.0m、短軸1.8mを測る。6号墓 (ST1006) と同様の構築方法である。確実に遺構に伴うのは灯明皿が1点だけである。

出土遺物 (第14・17図)

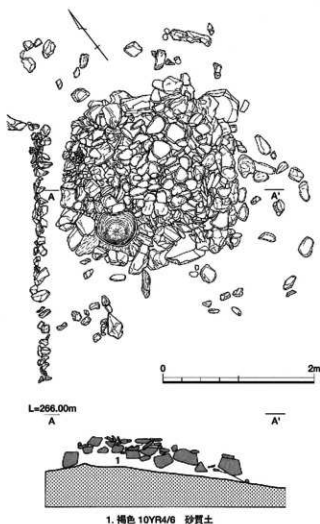
3は灯明皿である。内外面ともヨコナデを施し、外面底部は回転糸切りを施す。

6号古墓 (ST1006) (第10図)

北東部、ST1005の南側で検出された。規模は長軸3.6m、短軸2.4mを測り、方形を呈している。築造手順は、以下の①～⑤である。①地山の整地をする。②直径50～70cm程度のやや大きな砂岩で3.6m×2.4mの方形の外枠をつくる。③その砂岩で囲まれた内側に直径10～20cm程度の砂岩を詰め込む。④砂



第7図 ST1003平・断面遺物出土状況図 (S=1/50)



第8図 ST1004平・断面遺物出土状況図 (S=1/50)

岩を覆い隠すように20cm程度の結晶片岩を全体にのせる。⑤50cm程度の円柱状の結晶片岩を、遺構の中央に置く。なお、集石下部には、土坑などの施設は見られない。結晶片岩の使用量比は1号墓(ST1001)に比べ、1/3～1/4程度と少ない。遺構内の結晶片岩板石の間から、陶製の灯明皿が完形で出土している。この遺物から築造年代は近世と判断したい。

出土遺物 (第12図)

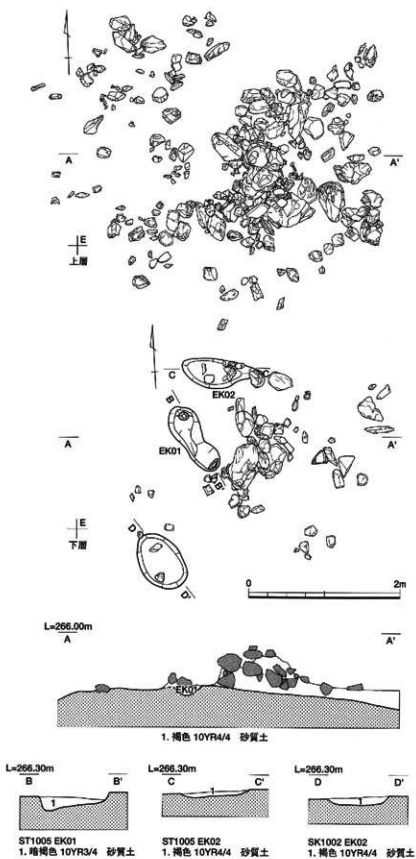
1は陶器灯明皿である。口縁部外面はヨコナデ、体底部は回転ヘラケズリ、内面はヨコナデを施す。18～19世紀前半に位置づけられよう。

7号古墓 (ST1007) (第11図)

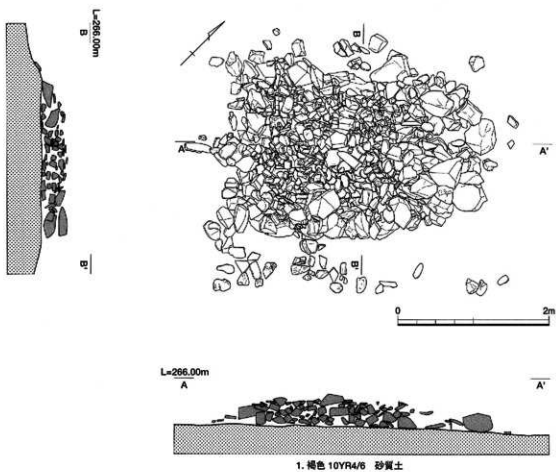
北東部、ST1001の北側に隣接して検出された。規模は推定で、長軸2.15m、短軸1.95mを測る。覆土中より出土遺物はなかった。

包含層出土遺物 (第13・15図)

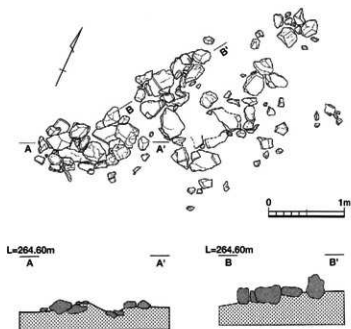
2は中世(14～15世紀)の土師質土器杯である。底部外面に板ナデを施す。4は中世(15～16世紀)の土師質土器釜である。口縁部内外面ともナデを施す。6は所属時期不明の敲石である。



第 9 図 ST1005・SK1002平・断面遺物出土状況図 (S=1/50)



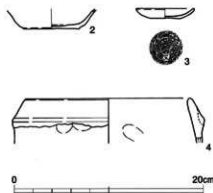
第10図 ST1006平・断面遺物出土状況図 (S=1/50)



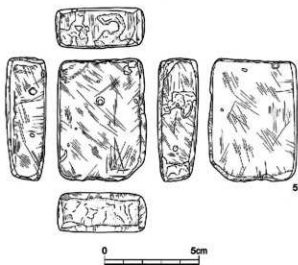
第11図 ST1007平・断面遺物出土状況図 (S=1/50)



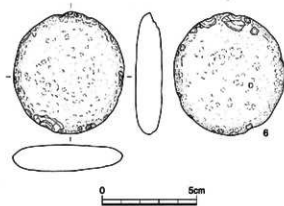
第12図 ST1006出土土器



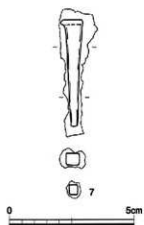
第13図 ST1005及び包含層出土土器



第14図 ST1005上面出土土器



第15図 包含層出土土器



第16図 ST1001出土鉄器



第17図 ST1005上面出土遺物

3 まとめ

調査の結果、丘陵頂から出土した遺構は、集積墓7基である。集積墓からの出土遺物は少ないが、1号墓（ST1001）から鉄釘や鉄製品が、5号墓（ST1005）と6号墓（ST1006）から灯明皿が見ついている。また、腐葉土層から土師質土器片などの中世の遺物が若干出土している。調査地周辺は、馬路城の比定地と考えられていたので、当初、中世の遺跡の存在が予想された。しかし、今回の調査では、城跡に関係するような堀跡等の遺構は検出されず、集積墓のみが7基検出された。その7基のうち、1号墓（ST1001）は、当該地域では入手困難な結晶片岩の使用量が多く、石の組み方も比較的複雑である。

一方、2号墓から6号墓（ST1002～ST1006）は、結晶片岩の使用量も少なく、また石の組み方も簡単である。このように1号墓（ST1001）と他の2号墓から6号墓とは構築方法に明らかな差異が認められる。この差異は、おそらく造られた時期差の反映と考えるのが妥当であろう。5号墓と6号墓の築造は出土遺物から判断すると近世であり、2号墓～6号墓には構築方法に大きな違いが認められないことから、これらの5基の集積墓は、近世に属すると考えられる。一方、1号墓は、同じ池田町の山田Ⅱ遺跡の集積墓（13世紀）と規模や石材に類似した点も見られることと、包含層出土遺物ではあるが、14～15世紀の土師質土器も出土していることも勘案すれば、その築造時期は、中世後半に収まるものと考えられよう。ただし、石の組み方に細部では相違点もみられるので、さらに広範囲に類例を比較することが必要である。今後は、中世～近世の集積墓の類例を、より多く比較検討することで、馬路遺跡の歴史的意義も深まるであろう。

第1表 馬路遺跡遺構一覧表

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深度 (cm)
ST1001	370	340	95
ST1002	230	210	100
ST1003	160	140	60
ST1004	220	200	70

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深度 (cm)
ST1005	200	180	60
ST1006	320	200	53
ST1007	230	200	50

第2表 馬路遺跡発掘調査 出土遺物観察表 土器

番号	遺構名 出土地点	器種	残存率	口径 (cm)	体部最大径 (cm)	底径 (cm)	頸部径 (cm)	器高 (cm)	その他の 法量(cm)	技法・文様	色調	胎土	動入 品
1	ST1006	陶器 灯明皿	1	7.8	-	2.2	-	1.4	-	外)口縁部:ヨコナテ,体底部:回転ヘラナズリ 内)ヨコナテ・横上,体底部:回転ナテ	外)赤褐色 内)暗赤褐色		
2	C-6 包含層	土師質 杯	1/2	-	-	5.8	-	(2.1)	-	外)口縁部:ヨコナテ,底面:板ナテ(幅1.2cm) 内)口縁部:ヨコナテ	外)黄褐色 内)赤褐色	石,黄土, 赤	
3	ST1005	土師質 灯明皿	1	6.2	-	2.4	-	1.0	-	外)ヨコナテ,底面:回転板ナテ 内)ヨコナテ	外)黄褐色 内)赤褐色	黄土	
4	H-10 包含層	土師質 釜	1/24	17.3	-	-	-	(4.8)	-	外)口縁部:ナテ,体部:板ナテ 内)口縁部:ナテ,体部:板ナテ	外)黄褐色 内)黄褐色	石,黄土, 赤	

第3表 馬路遺跡発掘調査 出土遺物観察表 石器

番号	遺構名・出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備考
5	ST1005上面	砥石	6.5	4.7	2.1	114.2	
6	C-7 包含層	石錐	6.4	5.8	1.4	89.3	

第4表 馬路遺跡発掘調査 出土遺物観察表 鉄製品

番号	遺構名・出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
7	ST1001	釘	4.2	0.9	0.5	6.5	
8	ST1005上面	銅銭	2.4	2.4	0.1	3.3	寛永通宝 背面に「文」文銭



調査区全景（北東から）



調査区全景完掘状況
（南西から）



ST1006石を除去
（南から）

図版 2



ST1001検出状況 (北東から)



ST1001石組 (南から)



ST1001区画石検出 (北から)



ST1005検出状況



ST1005遺物出土状況



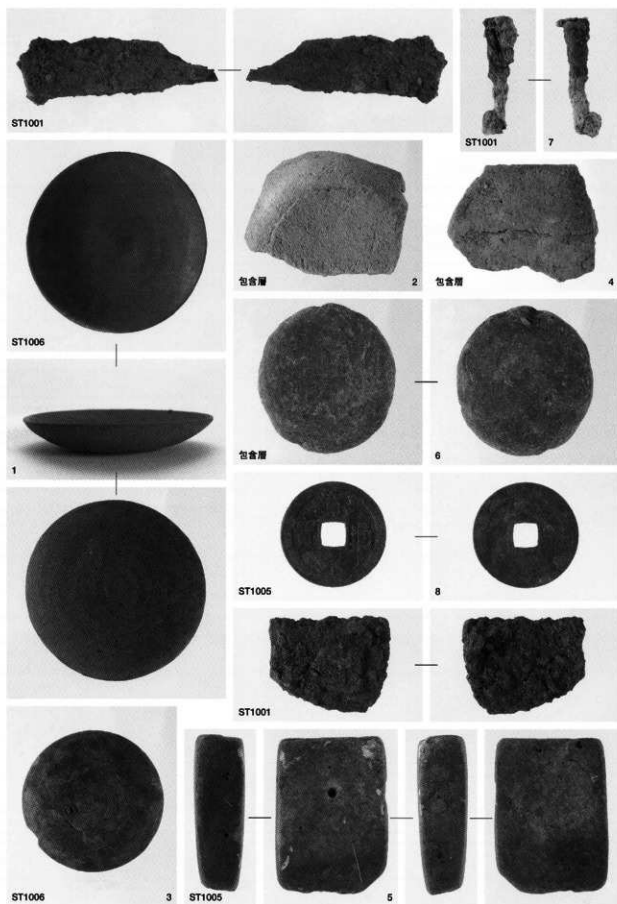
ST1005 (銭) 出土状況



ST1006検出状況



ST1006遺物出土状況





X 和田遺跡

1. 本章は、三好郡池田町に所在する清水遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査期間及び報告書作成期間は、第1章の本文及び第2・3表にまとめてあるので、参照されたい。
3. 本章の遺物番号は、通し番号とし、本文・挿図・図版・表と一致する。
4. 本遺跡周辺の地理的、歴史的環境については、本書第・章及び、『四同縦貫自動車道建設に伴う発掘調査報告18 大柿遺跡Ⅰ』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第37集の第Ⅱ章を参照されたい。

1 調査の経過

(1) 調査の経過

和田遺跡は、分布調査などの結果から、中世の遺跡の可能性が指摘されていた。発掘調査にあたっては2,810m²を対象面積として試掘調査を120m²の予定で行った。試掘調査は、平成8年6月3日～6月8日にかけて行われた。調査区中央部については、中世の自然流路と思われる遺溝が残存していたため、調査対象とした。第9～16トレンチ周辺については、約50年前に現在の水田を造成した際かなりの削平を受けている状況であり、遺構、遺物は検出されなかったため、試掘のみで終了し、本調査面積を1,100m²と確定した。本調査は平成8年8月1日に開始し、平成8年9月31日に終了した。



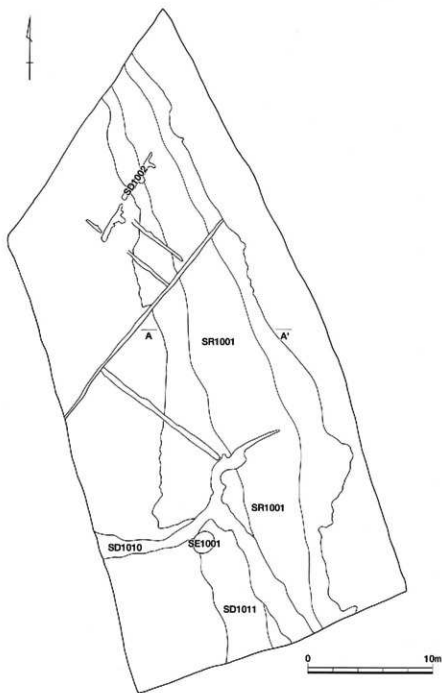
第1図 調査地点位置図 (S=1/2.5万)

(2) 発掘調査の方法

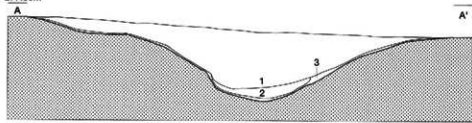
調査を始めるに当たりグリッドの配置は、発掘調査統一基準にならい、第IV系国土座標を基準とし、5mメッシュを1グリッドとして調査対象地を包み込む形で設定した。西北隅を基準とし、南にA、B、C・・・、東に1、2、3・・・の順に記号・番号を振り、その組み合わせで各グリッドを表すこととした。遺構記号・番号は検出時に決定し、掘削後遺構の確実性が乏しいと判断されたものについては欠番とした。

(3) 調査日誌抄

1996 (平成8) 年	8月23日	遺構掘削	
8月1日	調査開始、プレハブ設置、除草	8月27日	遺構掘削 (SR1001)
8月19日	遺構検出	8月28日	遺構掘削
8月20日	遺構検出、杭打ち	8月30日	遺構掘削、重機掘削、 完掘撮影 (SR1001)
8月22日	遺構掘削		



L=277.80m



1. にぶい黄褐色 10YR5/3 粘質土 (小礫含む) 2. にぶい黄褐色 10YR4/3 (小礫含む) 3. 暗褐色 10YR4/3 (炭化物含む)

第2図 和田遺跡遺構配置図 (S=1/300) ・SR1001断面図 (S=1/80)

9月2日	遺構掘削 (SR1001・SD1011)	9月28日	埋め戻し
9月3日	遺構掘削 (SR1001・SD1011・SX1001)	9月30日	片付け、埋め戻し
9月25日	遺構掘削 (SR1001のベルト⑥⑦北)	9月11日	遺構掘削 (SR1001・SE1001)
9月26日	遺構掘削 (SR1001のベルト⑧⑨北)	9月13日	遺構掘削 (SR1001・SE1001)
9月27日	遺構掘削 (SR1001仕上げ・完掘写真)、 埋め戻し	9月16日	遺構掘削 (SR1001)
		9月17日	遺構掘削 (SR1001)、SR1001の北壁撮影

2 調査成果

(1) 基本層序

調査区においては、流路内の堆積層は、地山の上層に炭化物を含む暗褐色粘質土、その上層に小礫を含みや粘質のあるにぶい黄褐色土が厚く堆積している。これらの層からは、中世～近世の遺物が出土している。

(2) 遺構と遺物

今回の調査では遺構として捉えられたのは、調査区中央部を南北に走る自然流路1条と人工流路3条と井戸1基である。遺物が出土した遺構の概要を示す。

2号溝 (SD1002) (第2図)

調査区北部、E-2で検出された。規模は長軸2.46m、短軸0.38m、深さ0.18mを測る。

出土遺物 (第5図)

19は須恵器甕である。体部外面にタタキを施す。

10号溝 (SD1010) (第2図)

調査区南部で検出された。規模は長軸9.52m、短軸2.80m、深さ0.92mを測る。

出土遺物 (第6・12図)

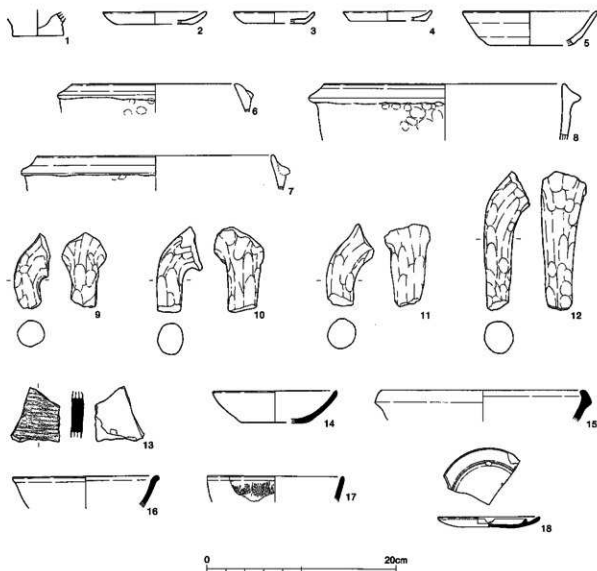
20は磁器皿である。内面見込みは蛇の目軸剥ぎである。29は銅銭の寛永通宝である。

11号溝 (SD1011) (第2図)

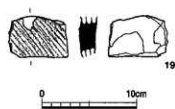
調査区南部で検出された。規模は長軸11.36m、短軸2.80mを測る。

出土遺物 (第7図)

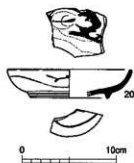
21は土師質土器釜である。口縁部内面にハケを施す。



第4图 SR1001出土土器



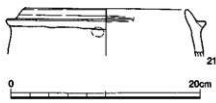
第5图 SD1002出土土器

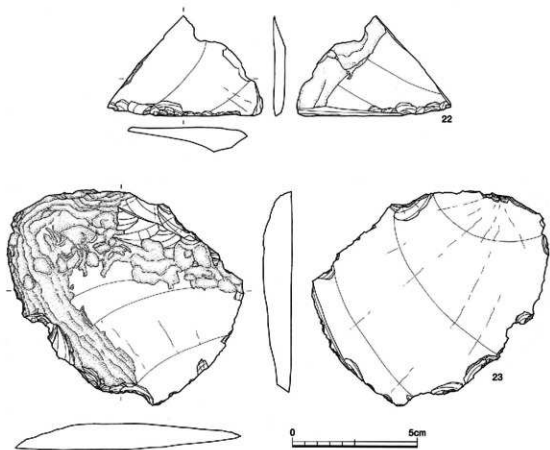


第6图 SD1010出土土器

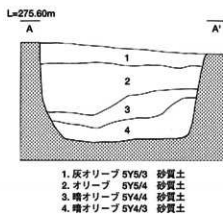
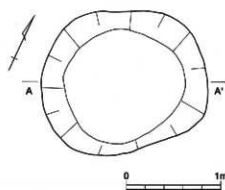


第7图 SD1011出土土器





第8図 SR1001出土石器



1. 灰オリーブ 5Y5/3 砂質土
2. オリーブ 5Y5/4 砂質土
3. 暗オリーブ 5Y4/4 砂質土
4. 暗オリーブ 5Y4/3 砂質土

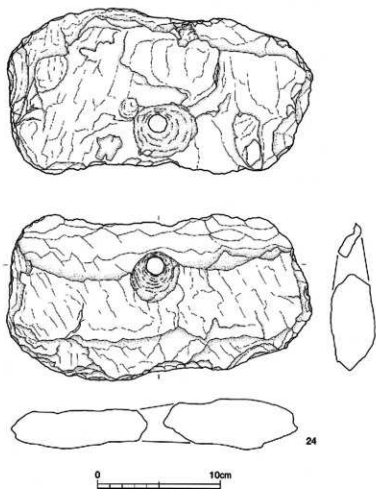
第3図 SE1001平・断面図 (S=1/40)

1号井戸 (SE1001) (第3図)

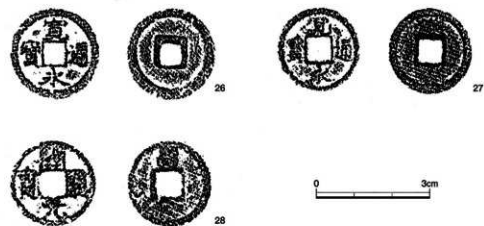
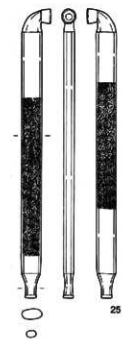
調査区南部、J-4で検出された。規模は長軸1.76m、短軸1.54m、深さ1.08mを測る。平面形は円形を呈し、底面はほぼ平坦であり、断面形は逆台形である。覆土は4層である。

出土遺物 (第9図)

24は石錘である。長さ24cm、重量1673.6gである。

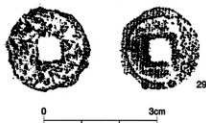


第9圖 SE1001出土石器



第11圖 SR1001出土遺物

第10圖 SR1001上面出土遺物



第12図 SD1010出土遺物

1号自然流路 (SR1001) (第2図)

調査区中央部で検出された自然流路である。調査区内では南北に走り、全長60m、幅6.3m、深さ1.05mを測る。断面形は椀形を基本とするが、底面は起伏があり、調査区北側では浅く、皿形になる部分もある。遺物は、大部分が1層から出土している。最も古いものは、弥生時代のサヌカイト剥片である。その他では、中世（13～16世紀）の土師質土器や須恵器が出土している。最も新しい遺物は、18～19世紀の灯明皿、寛永通宝である。これらの新しい遺物の年代から、自然流路は、近世になって完全に埋没したものと考えられよう。また、SR1001上面からは真鍮製の煙管が出土している。

出土遺物 (第4・8・10・11図)

1は土師質土器である。高台付皿と思われる。2・3・4は土師質土器皿である。2は底部に回転ヘラ切り手法を用いてある。5は土師質土器杯である。6～12は土師質土器釜である。13は須恵器甕と思われる。外面体部にタタキを残す。14は須恵器杯である。15は東播系の須恵器こね鉢である。16は青磁碗である。17は磁器碗である。外面に陰刻を刻む。18は備前焼灯明皿である。22・23はサヌカイトの剥片である。25は近現代と考えられる真鍮製の煙管である。26・27は銅銭の寛永通宝である。28は北宋銭の開元通宝である。

3 まとめ

今回の調査で、中世から近世の自然流路が確認できた。遺物は、中世に属するものがまとめて見られた。遺跡の南東約5kmには、承久3年(1221年)に勃発した承久の乱平定に貢献し、阿波守護に補任された小笠原長清が築城した大西城が存在する。この大西城の出城として、佐野城が本遺跡近隣に築城されていたことが、「城跡記」の記載から推察できよう。本調査区からは、城跡に関係するような遺構は、残念ながら見つからなかった。しかし、自然流路内から中世遺物がまとめて検出されていることから、近辺に佐野城関係の遺構が存在することが予想される。今回の調査は、徳島県西部の中世の城跡について考察する上で、貴重な類例となるであろう。

第1表 和田遺跡遺構一覽表

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深度 (cm)
SD1001	—	—	—
SD1002	246	38	18
SD1003	534	42	14
SD1004	343	29	8
SD1005	400	30	12
SD1006	416	18	4
SD1007	1960	23	6

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深度 (cm)
SD1008	1140	20	12
SD1009	940	80	74
SD1010	952	280	92
SD1011	1136	280	—
SE1001	176	154	108
SR1001	4775	1600	225
SX1001	1080	280	91

第2表 和田遺跡発掘調査 出土遺物観察表 土器

番号	遺構名・出土地点	器種	残存率	口径 (cm)	体部最大径 (cm)	底径 (cm)	頸部径 (cm)	器高 (cm)	その他の法量 (cm)	技法・文様	色調	胎土	掘入品
1	SR1001	土師質高杯	3/4	-	-	-	-	(2.3)	-	外) 底面・縁部の為難形不明 内) 底部:ナデ	外) 浅黄褐色 内) 浅黄褐色	石、雲、赤、長	
2	SR1001	土師質皿	1/5	11.0	-	8.4	-	1.3	-	外) 口縁部底面:ナデ、底面:指先ヘラ切 内) 口縁部底面:ナデ	外) 灰白 内) 灰白	石、長、雲	
3	SR1001	土師質皿	1/4	8.6	-	3.2	-	1.2	-	外) 口縁部底面:ナデ、底面:指先ナデ(幅1.2cm) 内) 口縁部底面:ナデ	外) 灰 内) 黄褐色	石、長、雲、赤	
4	SR1001	土師質皿	1/6	9.3	-	8.0	-	1.0	-	外) 口縁部底面:ナデ、底面:板ナデ(幅1.6cm) 内) 口縁部底面:ナデ	外) 灰 内) 灰白	石、長、雲、赤	
5	SR1001	土師質杯	1/10	14.2	-	8.0	-	3.6	-	外) 口縁部底面:ナデ 内) 口縁部底面:ナデ	外) 灰白 内) 黄褐色	石、長、雲	
6	SR1001	土師質釜	1/10	16.6	-	-	-	(3.0)	-	外) 口縁部:ヨコナデ、胎部:指先ナデ 内) 口縁部:ヨコナデ	外) 灰白 内) 黄褐色	石、長、雲、赤	
7	SR1001	土師質釜	1/12	24.7	-	-	-	(3.7)	-	外) 口縁部:ヨコナデ、胎部:指先ナデ 内) 口縁部:ヨコナデ	外) 黄褐色 内) 黄褐色	石、長、雲、赤	
8	SR1001	土師質釜	1/12	25.2	-	-	-	(6.0)	-	外) 口縁部:ヨコナデ+つまみ足、胎部:指先ナデ 内) 口縁部:ナデ	外) 黄褐色 内) 灰白	石、長、雲	
9	SR1001	土師質釜脚部	1/2	-	-	-	-	-	長さ(7.85) 幅(3.8)	外) 胎部:指先ナデ、指先ナデ 内) 胎部:ナデ	内) 外) 黄褐色	石、長、雲、赤	
10	SR1001	土師質釜脚部	1/2	-	-	-	-	-	長さ(9.0) 幅(4.85)	外) 胎部:指先ナデ、指先ナデ 内) 胎部:板ナデ(幅1.6cm)	外) 灰 内) 黄褐色	石、長、雲、赤	
11	SR1001	土師質釜脚部	1/2	-	-	-	-	-	長さ(8.7) 幅(5.0)	外) 胎部:指先ナデ、指先ナデ 内) 胎部:板ナデ(幅1.7cm)	外) 黄褐色 内) 黄褐色	石、長、雲、赤	
12	SR1001	土師質釜脚部	4/5	-	-	-	-	-	長さ(14.6) 幅(4.8)	外) 胎部:指先ナデ、指先ナデ 内) 胎部:ナデ	外) 灰 内) 黄褐色	石、長、雲、赤	
13	SR1001	須恵器釜?	不明	-	-	-	-	-	長さ(5.7) 幅(4.6) 厚さ(1.3)	外) 胎部:クタク (3条/cm) 内) 胎部:ナデ	外) 灰 内) 灰	石	
14	SR1001	須恵器杯	1/4	13.0	-	7.0	-	3.3	-	外) 口縁部底面:ナデ 内) 口縁部底面:ナデ	外) 灰白 内) 灰白	石、長	
15	SR1001	須恵器こね鉢	1/10	21.4	-	-	-	(3.2)	-	外) 口縁部:ヨコナデ 内) 口縁部:ヨコナデ	外) 灰白 内) 灰白	石、長、赤	束播派?
16	SR1001	青磁碗	1/18	15.3	-	-	-	(3.4)	-	外) ロクロナデ、胎部 内) ロクロナデ、胎部	内) 外) グレイみの黄緑		
17	SR1001	磁器碗	1/12	14.3	-	-	-	(2.7)	-	外) ロクロナデ、胎部 内) ロクロナデ、胎部 外面印刷(ハケ目5条/cm)	内) 外) グレイみの黄緑		
18	SR1001	陶器灯明重	1/4	10.8	-	5.3	-	1.1	-	外) ロクロナデ 内) ロクロナデ	外) 赤褐色 内) 灰赤		備前派?
19	SD1002	須恵器釜?	不明	-	-	-	-	-	長さ(4.3) 幅(6.25) 厚さ(1.8)	外) 胎部:クタク (3条/cm) 内) 胎部:ナデ	外) 灰 内) 灰	石、雲	
20	SD1010	磁器皿	1/4	13.2	-	8.2	-	3.0	高台高(0.5)	外) ロクロナデ、胎部 内) ロクロナデ、胎部・見込み縁の自然剥が 内外底面:ナデ	外) うすい灰 内) 灰みの白		
21	SD1011	土師質釜	1/12	17.0	-	-	-	4.9	-	外) 口縁部:ヨコナデ、胎部:指先ナデ 内) 口縁部:ヘラ(8条/cm)、胎部:ナデ	外) 黄褐色 内) 黄褐色	石、長、雲、赤	

第3表 和田遺跡発掘調査 出土遺物観察表 石器

番号	遺構名・出土地点	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
22	SR1001	剥片	6.1	4.0	9.5	16.1	サヌカ石
23	SR1001	剥片	8.5	9.4	1.2	95.9	サヌカ石
24	SE1001	石鏃	24.0	13.15	4.0	1673.6	結晶片岩

第4表 和田遺跡発掘調査 出土遺物観察表 鉄製品

番号	遺構名・出土地点	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考	
25	SR1001	上面	煙管	22.8	2.3	1.1	113.1	
26	SR1001	鋼銭	2.3	2.3	0.1	2.2	寛永通宝	
27	SR1001	鋼銭	2.2	2.2	0.1	2.0	寛永通宝	
28	SR1001	鋼銭	2.3	2.3	0.1	2.9	開元通宝	
29	SD1010	鋼銭	2.2	2.2	0.1	1.7	寛永通宝	

和田遺跡 図版1

調査区全景

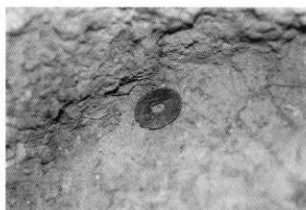


SR1001完掘状況
(北西から)



SR1001完掘状況
(南東から)

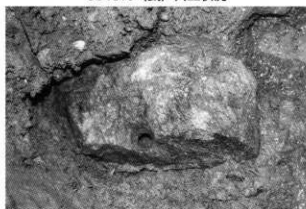




SD1010 (銭) 出土状況



SD1011完掘状況



SE1001遺物出土状況



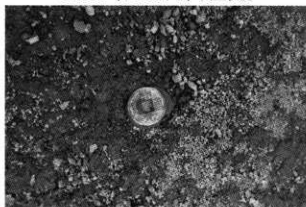
SR1001遺物出土状況



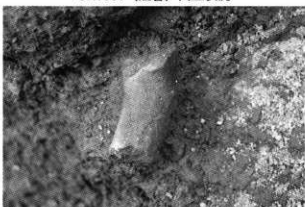
SR1001 (サヌカイト) 出土状況



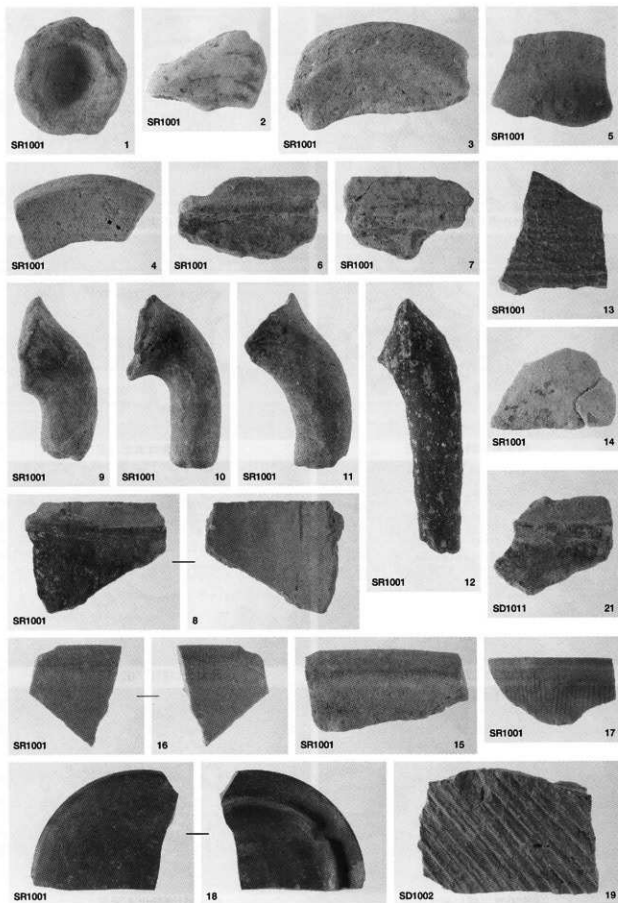
SR1001 (煙管) 出土状況

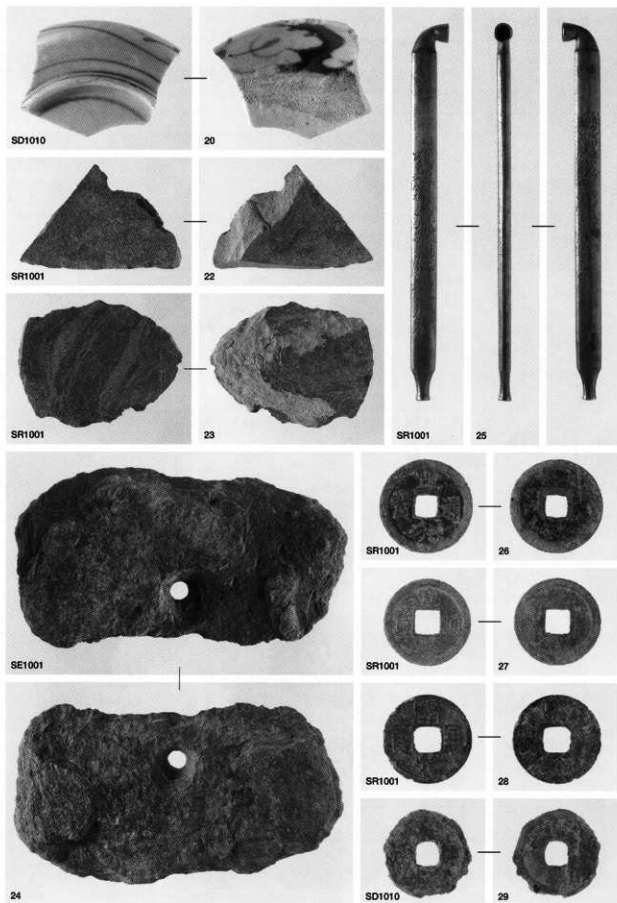


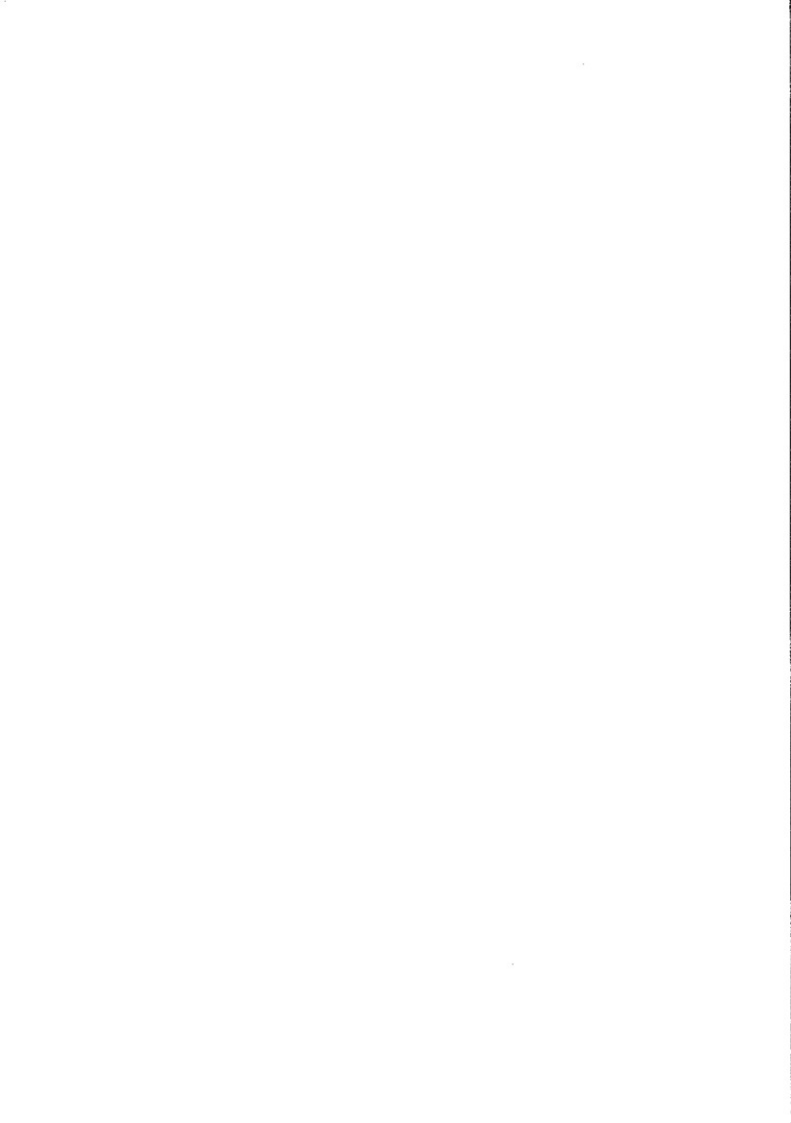
SR1001 (銭) 出土状況



SR1001遺物出土状況







報告書抄録

ふりがな	水掘池遺跡・清水遺跡・塩塚遺跡・お塚古墳・供美地遺跡・山田遺跡(Ⅱ)・山田遺跡(Ⅰ)・馬路遺跡・和田遺跡							
副書名	四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	29							
シリーズ名	徳島県埋蔵文化センター調査報告書							
シリーズ番号	第58集							
編著者名	菅原康夫・前田隆司・近藤玲・田川憲							
編集機関	財団法人 徳島県埋蔵文化センター							
所在地	〒779-0108 徳島県板野郡板野町大伏字平山86番2 TEL 088-672-4545 FAX 088-672-4550							
発行年月日	平成17年9月30日							
ふりがな	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
清水遺跡	三好郡三野町大字清水字東籬1408他	番 号	36481	34° 03' 03"	134° 00' 09"	1996 4/3~7/31	10,000	四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
塩塚遺跡	三好郡三野町大字清水字塩塚1334他	番 号	36481	34° 03' 13"	133° 59' 46"	1996 4/3~6/10	1,950	
お塚古墳	三好郡池田町字トウケ106-1他	番 号	36483	34° 01' 25"	133° 49' 46"	1996 3/6~3/31 4/1~10/31	6,198	
供美地遺跡	三好郡池田町字クヤウジ4151他	番 号	36483	34° 01' 18"	133° 49' 28"	1995 7/13~ 1996 3/31	1,700	
山田遺跡(Ⅱ)	三好郡池田町字ヤマダ	番 号	36483	34° 01' 21"	133° 49' 23"	1995 6/15~ 1996 3/30	1,230	
山田遺跡(Ⅰ)	三好郡池田町字ヤマダ557他	番 号	36483	34° 01' 17"	133° 49' 16"	1996 8/1~9/30	650	
馬路遺跡	三好郡池田町字馬路字安永78他	番 号	36483	34° 00' 34"	133° 44' 52"	1998 4/2~6/30	650	
和田遺跡	三好郡池田町佐野字和田308番地他	番 号	36483	34° 00' 13"	133° 42' 56"	1996 8/1~9/30	1,100	
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
清水遺跡	生産	平安時代 鎌倉時代	土坑・炭窯		弥生土器・須恵器・陶器・石甕丁			
塩塚遺跡		江戸時代	土坑・不明遺構		土師器・陶磁器・瓦・銭貨			
お塚古墳	集落	中世	独立柱建物跡・土坑・集石遺構・中世墓		土師器・須恵器・陶磁器		中世墓	
供美地遺跡		中世	独立柱建物跡・土坑・瓦焼成窯・中世墓		土師器・須恵器・陶磁器・瓦		中世墓の祭祀行為	
山田遺跡(Ⅱ)	集落	古代 中世	独立柱建物跡・土坑・溝・火葬墓		土師器・須恵器・陶磁器・釘		中世の火葬墓	
山田遺跡(Ⅰ)	岩陰	縄文時代	岩陰		縄文土器・石鏃・剥片・磨き石・石皿・敲石		県内では3例目となる岩陰遺跡。	
馬路遺跡	墓域		集積墓		土師器・陶器・磁石・石鏃・釘・銭貨		中世の集積墓	
和田遺跡			井戸・溝・自然流路		土師器・須恵器・陶磁器・サヌカイ剥片・石鏃・銭貨			

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第58集

四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 29

発行日 平成17年(2005)9月

編集 財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番2
Tel (088) 672-4545
Fax (088) 672-4550

発行 財団法人 徳島県教育委員会
徳島県埋蔵文化財センター
日本道路公団

印刷 株式会社 栄青写真社